

要 望 書

建設業は、地域社会の生活基盤を支える社会資本整備や維持管理の担い手であるとともに、地震や豪雨など災害発生時における救助活動や復旧活動、降雪期の除雪活動など地域の安全・安心の守り手として、さらには、地域の活性化・地方創生の主体として重要な役割を担っております。

このような地域建設業が担う役割を今後も十分に果たしていくためには、技術力と経営力を有する建設企業が県内において偏在しないことが重要であり、このためには、県内各地域に適正な仕事量と担い手が確保される必要があります。

しかしながら、建設業界においても担い手不足や高齢化が大きな課題となっており、このままでは、建設業が担う役割を果たすことが困難になるのではないかと危惧しております。

また、建設現場における生産性向上の観点から建設業界においても、ICT（情報通信技術）などを活用した取り組みが進められており、ますます若手技術者が必要となっております。こうしたことから、業界をあげて若手技術者の入職・定着促進を図るため、長時間労働の是正や週休2日制に向けた働き方改革の推進、建設現場における労働環境の向上などに取り組んでいるところであります。

このような中、県立高校の土木・建築系学科（現在4校6学科）は、地元建設企業へ就職する若手人材の教育機関として極めて重要な役割を果たしております。しかしながら、近年の入試状況を見ると土木・建築系学科の志願倍率が全日制全体を大きく上回るととも

に、年度によっては2倍を超えている学科もあるなど、せっかくの希望者を定員不足のため受け入れられていない状況にあります。

さらに、県内各地域の土木・建築系学科の設置・定員状況を見ますと、新川地区では桜井高校土木科40名、富山地区では富山工業高校建築工学科40名・土木工学科40名、高岡地区では高岡工芸高校建築科40名・土木環境科40名となっている一方、砺波地区では南砺福野高校農業環境科（造園土木類型）上限20名～下限5名となっており、砺波地区が他の地区と比較して土木・建築系学科の設置・定員状況が十分でないように思われます。

（会員企業数：新川地区120社、富山地区181社、高岡地区133社、砺波地区104社）

つきましては、建設業界における担い手確保の苦境をご賢察いただき、砺波地区の高校における土木・建築系学科の新設又は定員増について、格別のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

令和元年12月5日

一般社団法人 富山県建設業協会
会 長 竹 内 茂